

## 車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：本通四丁目・柳町自治会

開催場所：柳町公会堂

開催日時：平成 28 年 5 月 25 日（水）19 時 00 分～21 時 20 分

参加者：自治会側【地域住民の方 14 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、眞鍋危機管理部長、杉村地域生活部長、畑教育部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、山内協働推進課係長】

### 内 容

#### ① 萩田本通四丁目・柳町自治会長あいさつ

・みなさん、こんばんは。今日はお忙しいところありがとうございます。昨年来より、市のご提案で市長さんと各自治会のみなさんと直接会って、忌憚の無い意見交換をしてくれじゃないかという御提案をいただき、今日開催することとなりました。回覧でもご案内したとおり、格式ばったことじゃなくて、日頃、自分が希望すること、ご提案がありましたら、どんどん遠慮なくこういう機会に述べていただいて、充実した意見交換が図れる、そんな場になればという風に私も思いますので、今日はよろしくをお願いします。

#### ② 市長からの市政報告

##### ■はじめに

・皆様、こんばんは。四丁目の皆様、そして柳町の皆様、本当に1日の仕事が終わってお疲れのところを、こうしてお出ましまして、本当にありがとうございます。また、今年は6年に一度の祭年で、特に4街のみなさん方は年番ということで、祭を取り仕切る今年は、まさに7街まであるから、今年は21年に一度の年ですよね。きっと気合も入って、色々と準備で動かれていることと思います。また、お祭のことも含めてですが、このまちを、みんなの力で、良くしていきたい、で、どんなことができるのかということ、そしてまた、私が普段考えていることや、このまちの課題だと思うこと、こういう風に夢を膨らましていきたいんだというような話をさせていただきたいと思います。

##### ■市政運営について

・この本通四丁目と柳町が、どのくらいの世帯数で、どのくらいの大きさでっていうことを、ちょっと調べてきました。そうしましたら、世帯数が99、人口が237人、高齢者といわれる65歳以上の方が84人おられました。これは、高齢化率が35.4%という数値であります。一方、15歳以下の子どもは、21人ということで、割合としては8.9%ということでした。これは、島田市の平均の高齢化率、65歳以上の平均は29.2%であります。10万人規模で29,200人くらい65歳以上がいるわけです。こちらが35.4%ですから、まさに3人に1人は65歳以上という方で、昔から住んでる方が多いという町だなということです。同じく、子どもの数が21人で8.9%ということなんですが、これは、市の平均は13.8%であります。ですから、昔から住んでる方が多くて、少し

年配の方が多くて、子どもの数がいくらか少なめというのが、この地域、四丁目と柳町の世帯構成かなという風に思ってお話をします。実はここに、これからの日本の、これからの島田市の課題が、実は人口減少ということ、どこの市町もそうだけ一番大きな課題になってきています。ざっと見たときに、この5年間で15歳以下の子どもは、ちょうど150人生まれる子どもの数が減りました。去年は722人でした。ですから、年平均30人くらいずつ減ってきている。でも、今成人式を迎える子どもたちは1,000人以上いますので、ここ10年くらい急激に子どもの数が減ってきているんだなって思いました。一方で、65歳以上の高齢者といわれる方の人数は、この5年間で3,188人増えました。だから、1年間に600人くらいずつは65歳以上が増えていて、これがもっと加速度的になってくるということで、2025年は団塊の世代の人たちが、みんな後期高齢者と言って、75歳以上になる年なんです。この年になると、島田市は、やっぱり高齢化の波がピークに達するあたりで、3人に1人が高齢者で、今は元気でやりたいことをやって、生き生きと暮らす高齢者の方が多いですが、10年経ったときに、やっぱりみんなが元気でいられるためには、これから、いろんな、元気でいるための、ご高齢の方たちに元気でいていただくための施策もしっかりやっていかなければならないということがわかります。と同時に、私は、この人口減少は、地域の活力を無くしてしまうんですよ。今でもそうですけど、例えば、役員になり手がなくなってきたよとか、毎年毎年、役をやらなきゃならんとか、あるいは、川ざらいするのも、出たくても出られないよっていう人がある、やっぱりそういう時代を迎えつつある。これを、何とかしなきゃならんということで、まち・ひと・しごと地方総合戦略というようなものもつくったんですけれども、これが出来上がった最初のきっかけは、ちょうど2年前の5月でしたけれども、俗に「増田レポート」と言われる、地方創生会議というところが、全国で約1,700くらい自治体があります、市町村が。その1,700の中で、896の自治体が2040年には消滅して無いかもしれないというようなショッキングなレポートを出しました。49.6%が消滅してしまうかもしれない。1/2しか残らないかもしれないというようなことが、非常にショッキングな数値として出て、そして国もそれまでは地方分権とかいろいろ言ってきましたけれど、人口減少をどう食い止めるか、地方創生、東京一極集中を、できるだけ人を増やして、地方はまだ子育てができる、東京は、結婚してもなかなか子どもが産めないような環境の中で、できるだけ地方で豊かな暮らしをしていただいて、子どもの数も増やしていこうというような総合戦略を打ったわけです。島田も実は、2060年には今のままで行くと、10万人の人口が6万人なっちゃうかもしれないという、社人研って言って、人口問題研究所の数値がございました。それに対して、島田は2060年にも8万人位の人口を維持していくんだと、そのために、今後5年間は何かをするのか、というような総合戦略をたてたところでもあります。この人口減少を、政策的なことを言っていけば、どんどん細かい話になっていくものですから、地域の活力を維持するっていう観点から、やっぱり切り口を見つけていかなければならないという風に思っています。さっきお話したみたいに、役員になる人がいなくなったり、あるいは、子どもの声が聞こえなかったり、空き家がいっぱい出てきてしまったり、空き地が増えたりしたら、困るわけですね。だけど、例えばあと20年経ったら3軒に1軒は空き家になっちゃうんじゃないかって、国がそういうことを言い出し始めています。そうした中で、地域の活力を維持していこうってことであれば、四丁目、柳町だけではなくて、もう少し広い形で、この近隣の5町内と繋がっていくってことも、連携するってことですよ、一つ手だと思し、みなさんはどういう風に思われるか知りませんが、私は、これから行政が、何もかも行政がやりますよっていう時代では無くなっていきます。その中で、やっぱり地元の人達と、みなさんがつくりたいまちづくりっていうことにおいて、一緒にやらないとならないと思っているんです。やり方として、これまでの伝統の中では行政にお願いして、なんとかやってもらおうじゃないかっていう思いが多かったかもしれないけれども、行政も、どんどん、それは難しい時代になってきました。それは、人

口減少もそうだけれども、どんどんどんどん、医療だとか、介護だとか、福祉だとかっていうところにもお金がいっぱいかかる時代になってきますよね。一方で、税収はっていうと、働く人の人口がどんどん減ってきますから、税収はそんなに大きく伸びるわけではない、そうした時代に、限られた予算で豊かな町をつくって行くためには、やっぱり地元の人達、地域の人たちが、自分達の地域をどうしていきたいんだ、こんな風にやりたいんだっていう中で、一緒に町をつくっていきって言う、そういう考え方がとても大事になってくるということ、皆さんにとっては聞きづらい話かもしれないけれど、大事なことになってきます。それは、単なるお手伝いっていうのではなくて、この町をこうしたいから、だから、行政は何をやってくれっていうくらいの気持ちが必要になってくるかなって思っています。いくつかの例を挙げると、例えば、湯日って知ってますか。初倉の方にある小さな地域ですけれども、湯日は小学校があるんですけれども、32人くらいしか子どもがいません。それでも、やっぱり働いているお母さんたちが増えて、子どもを放課後児童クラブへ行かせたい、そうでないと働き続けられない。でも、32人が全校だっていうと、なかなかそこに放課後児童クラブが造れないです。一番近いところは、初倉南小学校というところなんですけれども、ここまで5キロ、ちょっと1年生が歩いていくには厳しいかな、危ないかなって思って、どうしたものかと思って随分悩みました。地域の方にご相談申し上げたら、自治会の方で、いいよと、帰りはお母さんが迎えに行くんだろ、送っていくときだけだったら何人かの有志を募ってみんなでローテーション組んで送っていくからって言って、2人か3人のお子さんを学校まで送ることをやっていただくことになりました。ですから、ガソリン代とか、少しのお礼のようなものを行政が出すということになりました。また、ある地域では、コミバスの便が不便で、コミバスが通っているところまでお年寄りを連れて行きたい、買い物のお手伝いをしたい、病院に行く手伝いをしたいっていう時に、行政の方で、車やガソリン代や保険をみてくれるならば、運転手は、なんとか自分たちで回り番でやろうじゃないかって言う話が出て、そういう方法をやってみたいという地域も出てきています。高齢者が多いから見守りたい、みんなが元気で暮らしているか見守るためにお弁当を届けようじゃないかっていう、そういう動きをすることとか、いろんな地域の課題を解決するために、それぞれの地域の人たちが動き出すというようなことが、出始めてきました。やっぱり、本当にその地域の課題を解決していくためには、地域の方たちのお力がないと、なかなか難しいかなって思っています。よそでも話すんですけども、去年の夏もすごく暑くて、熱中症になってはいけなから、ご自宅にいても、エアコンを使ってくださいって、一生懸命、保健師も言う訳ですよ。でも、実際は暖房に設定されていたり、三十何度っていう設定になっていたり、やっぱり、それはいろいろあって、単にエアコンを使ってくださいって言うだけでは浸透していかないんだなってことは実感として思いました。やっぱり、地域で見守る目っていうのも必要になってくるわけですよ。そうした中、突然こんなこと言うのも変ですけど、島田って、よそから来た人達にとって、ものすごく住みやすい町、すばらしい町だっていうことを、つい昨日も一昨日も、会議の中でそういうお言葉がありました。ハローワークの所長さんとか、ろうきんの支店長さんとか、そういう方たちが、この4月に転勤してきて、つくづくこの島田がすみやすい町だ、去年来たうちの副市長の高木も、島田はいい町だっすごく言っています。まず、持家率を見ていくと、島田は、県内でも伊豆市と並んで持家率が高い、県内トップクラスの持家率です。それから、離婚率も、ずっと何年も県内最低です。島田は、別れる人が少ない。離婚する人の話をいっぱい聞くような気がするけど、それでも統計で見ると、県内で一番、離婚する人の少ない町です。それから、軽犯罪、スリとか空き巣とか、こういった軽犯罪も、県内で1、2を争う低いところ。持家率が高くて、離婚率が低くて、軽犯罪率も少なく、皆さん親切、本当に人柄がいい、やっぱり、この島田の暮らしやすさをもっともっと全面に押し出して、外から人が来るようにしていかなきゃいけないかなと、強く今、思っています。その、人を呼び込むために

は、医療も介護も、そして子育ても福祉も教育も、みんな大事なんですけれども、特に今、働く人達にとって待機児童の問題がとても大きな課題になっていますので、今、まだ島田市には27人ほど待機児童がいます。数字上は27人となっていますけど、きっと保育園に預けて働きたい希望者まで入れれば、もっと大きな数だと思うんですね。29年度、来年度に待機児童ゼロを目指して、ひとつには向谷というところに0歳、1歳、2歳のいわゆる赤ちゃんを預かる保育園を造ろうと思っています。これは、市の土地の上に民間で建てていただいて、建てる費用を支援するような形で、定員60人くらいで造りたいなと思っています。また、もう1ヶ所、別なところにも同じように0、1、2歳を預かる保育園を造りたいという風に思っています。3歳以上では、待機児童はいません。問題は、育休明けの0歳児を預けるところがないということが、一番大きな課題ですから、ここをしっかりとクリアしてやっていきたい。金谷と川根も実は待機児童はほとんどいません。いるのは旧市街、それから初倉、六合です。このあたりにですね、しっかりと子供を預かる場所を造っていくっていう事が大事だと思っています。それと同時に、放課後児童クラブの待機児童も減らしていかなければならないということは思っています。そういった働きながら子育てをできる環境をしっかりとこの島田に作っていくと、それから、やっぱり特色ある教育ということについても島田は、子供を育てることに一生懸命やっていますけれども、親を育てるということでは特別なメニューを組んで一生懸命やっています。いろんな課題が、実際あるけれども、でも、子どもだけの問題ではないんですよ。親を育てるってことはものすごく今、大事になってきています。例えば、若い人たちは何でもタダ、安い方がいいっていうんです。医療費はタダがいい、保育料もタダがいいって。でも、私は、もちろん、税金が非課税の方からはいろんなお金を払っていただくことは考えないけれども、でも、わずかな負担は必要なのかなって思ってるんです。例えば、医療費をまるっきりタダにするには、今4億円以上の医療費を使っていますけれども、今は、1ヶ月に500円払っていただいています。この500円を全部なくすということはあと7千万円ぐらいプラスアルファの医療費をかけなければなりません。飲み薬を買って飲ませるよりも、病院へ行った方がタダだから、安いからってなったら、やっぱり、本当にこの子を、今病院に連れていかなければならないのか、一日待てるのか、塗り薬でいいのかっていうようなこと一つ育っていかない。給食費だってタダのほうがいいって言方もいらっしゃいます。でも、給食費は材料費しかもらっていません。その材料費だけですけど、年間に4億円相当の額になります。その4億円があれば、他にできる施策が沢山あります。ですから、お金の使い方っていうようなことも、しっかりとオープンにして議論できなきゃいけないっていうことを今、思っているわけです。

#### ■災害対策について

熊本の地震があって、皆さんも、いざ大きな地震がきたらどうなるだろうかって心配している方も多いただろうと思います。この町の中のことをいいますと、5軒に2軒は全壊、半壊、一部損壊といって、何かしらの被害が出るっていう想定をしています。島田は、大変に強い地盤で、液状化もしにくいですし、そういう意味ではとても安心な場所なんですけれども、やっぱり地震によって壊れる家が出てくる。それから、火災が発生するというような可能性も実はあります。耐震化率を見てきたんですけれども、昭和56年より後に建てた家は、耐震基準を満たしていますが、昭和56年よりも前に建てた木造の家っていうのは耐震基準を満たしていません。そういう家が、だいたい市内全域で7,000棟くらいあります。耐震補強の補助金だとか、いろいろつけているんですけれども、例えば80歳を過ぎた方ですと、その時はその時だと、もうしょうがないというような方がおられたりして、いくら補助があっても100万

円以上かかることは、年金で暮らしている中では、なかなかできないよっていう方もいることは事実です。そうした中で、何ができるかっていうことを考えてきたんですけれども、やっぱり、耐震化率を高めるってことでずっとやってきたけれども、それでも、ある程度のところまで行くとなかなか進まない中で、今回、耐震補強の金額も、若い世帯、高齢者といわれる65歳よりももっと若い人たちの世帯で、10万円を足して60万円にしました。65歳以上の方には80万円にしました。でも、それでもなかなか耐震補強が進まないってこともあると思いますので、それとは別に、家の中に耐震シェルターを造るっていう、その工事のお金を6月補正にあげたいと思っています。今日ちょっと見ましたが、全国版の行政ニュースが載るものがあるんですけれども、その中に、島田市の耐震シェルターの補助を出したというようなことが、全国のニュースの中に載っていました。この耐震シェルターというのは、ベットを二つ置いて、あと、食料品などの備蓄ができる大きさ、大きさにすれば四畳半の中に一つ家を造るような形です。これは、市の補助を30万円出そうと思っています。そうすると、ほとんど自己負担無しに、自己負担があったとしても数万円くらいの自己負担で家の中にもう一つ、シェルターを造ることが出来ます。そうすれば、耐震補強の全体はできないけれども、ほとんどの金額を行政が出すならば、寝ている間、そして昼間でもそこに逃げ込めば家がつぶれても自分は助かるというようなものを造りたいということでの耐震シェルター、それと、ベットの四隅に柱を立てて、上をつぶれない屋根で覆うという防災ベットっていうんですが、こちらは20万円ほどしますが、こちらも、ほとんど自己負担なしで買える金額の20万円を出そうと思っています。併せて、1,200万円ほどの補正を、この6月の議会にあげて、7月1日から受け付けができるんじゃないかなと思っています。6月の末に議会で議決をいただければ、7月から募集をかけられるかなと思っています。そうした耐震シェルターも口で言っただけではわからないと思いますので、できるだけ早く、できれば7月にでも、おおりの方にでも展示して、それを見ていただいて、これなら家に入れられるとか、やってみようじゃないかというお宅があれば、これはしっかり補助をして、助かる命は全員助けるということやっていきたいなと思っています。是非、関心を持っていただいて、市長が言ってたあれはどくなったって聞いていただければありがたいなというふうに思います。

#### ■浜岡原発について

島田は、市民の安全安心というところでは多分、県内でもトップクラスの施策をずっと打ち出しています。例えば、浜岡で何かあったときの避難マニュアルなども県内でいち早く作っていますし、まあ、避難マニュアルを作ったところで、私は、再稼働は認められないと思っています。そういったこともよく質問に出ますので先にお話しますが、いろいろと、全国的なことや動きはあります。原子力行政そのものは国が決めることかもしれません。だけど、浜岡の原発に関しては、やっぱり地元の自治体として私は、市民の安全と安心を、命を守れるっていう保証が無い限り、なかなか、あれを再稼働させるのは無理だというふうに思っています。今だって稼働していないけれども、使用済みの核燃料も、たくさん詰まっています。それをずっと冷却し続けなければならぬし、活断層の問題もあるし、ましてや、3.11だって、地震の揺れでああなったのか、配管が壊れてああなったのか、電源がなくなってああなったのか、そういった検証も十分ではない中で、今、浜岡原子力発電所の再稼働は難しいというふうに思っています。

## ■新病院の建設について

島田市民病院は、今の場所に建て替えることにしました。これは何度もお話をしていると思います。これまで、液状化するから街の中に移転するっていう話が過去にあったわけだから、本当に大丈夫かっていうようなことを、何度も議会からも聞かれています。でも、ボーリングの調査の結果を見ても、液状化の可能性は低いところですよ。岩盤までは少し距離があります。深いところで30mくらいです。だから、しっかり杭を打たなければいけない。けども、そのボーリングで、出てきた土を見ると、粘土質です。粘土の中に砂がまじっています。液状化って、砂と水が混ざってなるものですから、液状化の可能性は低いと思います。あそこに、新しい病院を平成32年度の末までに建てたいというのが今の計画です。今年度、設計をやっています。来年は詳細設計、そして、30年からはいよいよ建設にかかっていくということです。場所は、東側の駐車場のあたりが中心になります。道路の付け替え等をして病院を建てる面積をしっかり作って、変な形にならないようにして、屋上にヘリポートを設けていきたいと思っています。病床数は445床を計画しています。今、520床ほどありますので、少なくなる部分はどこかっていうふうに聞かれることがあるんですが、一つは、精神科が平成19年からずっと閉鎖したままでありまして、なかなかお医者様の手当がつかえません。入院の患者を受け入れるためには、チームになるくらいのお医者様の数が要ですから、精神科の再開がなかなか難しいと思っていることが一つと、療養型の病床を無くして、急性期の病院に特化することを決めました。このことについても、今、次の病院に行くところが決まるまで入院している人たちをどうするんだというようなお話を、議会からもいくつかいただいています。療養病床は廃止しますけれども、一般病床の中でしっかり継続して、次の病院が決まるまでの患者さんは見ていきますし、今もずっと入ってらっしゃる方は、引き続きずっと診ていただきます。なぜそういうことになるかっていうと、今、毎年1兆円ずつ医療費が伸びてきているんですよ。国もすごく大変で、いろんな予算を削っているんですけども、社会保障費や医療費がどんどん伸びて、国も何とか削減したいっていう中で、2025年の団塊の世代の人たちがみんな後期高齢者になるときを目指して、大幅な医療制度改革というものを国が目指しています。それは、病院や施設から在宅へという流れです。急性期を抜けたら、できるだけ在宅で、暮らしなれたところで治療しながら養生していただくという方針です。そういう方針が明らかになってきているので、島田市は、4月から24時間訪問看護ステーションというのを始めました。お医者様の指示書があれば8人体制の看護師さんたちが、それぞれのご自宅まで行って、医療行為を行い、必要であれば市民病院に入院していただくということが、24時間、いつでも診ますよということをしっかりとやっていくということです。実は、市内の開業医の先生方も高齢化をしてくいて、今は往診をしてくださる先生方も、実は、いつまでも、あと5年10年しても往診できるっていうわけではなくなってきています。ですから、行政が市民病院と組んで、そここのところをみていかなければならないというのが、24時間訪問看護ステーションです。それから、地域の皆さんと共に連携しながら地域での見守りをやっていくという意味では、地域包括ケアというシステムを今導入して、各中学校単位で地域包括ケアのセンターをつくって、高齢者の見守りをやっています。それから、ご高齢の方で一人暮らしの方が大変増えています。そうした中では、高齢の一人暮らしの方のための見守りと言いますか、これも約500人の方を登録をして、何かあればすぐブザー一つで連絡ができる、そして、毎週必ず行政から電話がいて、困ってることはありませんか、体調はどうですか、というようなことを確認し、何かあれば20分以内にそこに行けるような体制というのも民生委員の皆さんと協力しながらとって、安心して住みなれたところで暮らし続けていただけるような、そういった施策をして行こうということでやっています。厚生労働省は、それぞれの病院は急性期の病院なのか、慢性期の病院なのか、療養型の病院なのかというふうに、病院そのものを分けて行こうという考え方を持

っています。今、島田市民病院のように、急性期の病院は患者さんが7人に対して看護師を1人、7対1という方針でやっているわけですが、そこに、療養型の病床が混ざると、13人とか15人の患者さんに看護師が1人でいってというような体制になって、システムが混ざってしまう。そういう混合になってくると病院の経営も非常に難しくなるということで、島田市民病院は、急性期の病院として特化していくよということを方針として決めたということでございます。しかしながら、島田は市民病院しか入院するところがありませんから、そのあとの行き先については、しっかりと民間の病院と連携しながら困ることが無いようにしていきたいと、病院と行政の方でしっかり組んでやっているところでもあります。新しい先生方にこの町に来て開業してもらわないとならない、そういう手当もどうしていったらいいかということも出てきます。

#### ■蓬萊橋周辺整備について

せっかく蓬萊橋があってたくさんのお客さんが来ているのに、もったいない、何とかお金を落としてもらえるような施設が造れないのかと言うお話も大分いただいております。河川敷ですから、なかなか占用許可が難しかったんですが、国交省も規制緩和をしてくださって、我々もずっと要望活動を続けた結果、地元協議会をつくれれば、ミズベリングという協議会をつくれれば、その方たちの協議の下で、お休み処をつくれることになりましたので、できれば、補正で上げてでも来年の春には蓬萊橋のところにお休み処や物品販売所になるようなところを造って、観光客の方たちに、島田の観光名所ですから、蓬萊橋を楽しんでいただきたい、そして、街中を歩く人を増やしていきたいというふうに、今思っているところです。

#### ■稼ぐまちについて

政治の役割あるいは行政の役割は、つまるところ、やっぱりここに住んでる人たちの命を守り、暮らしを守ることであり、安心して住みなれたところに暮らし続けることができることだと思っています。そのために、医療も介護も福祉も教育も子育ても、みんな大事です。一生懸命やっていかなければならない。でも、その財源を確保するために、稼ぐ仕組みを作っていくことも、ものすごく大事なことに、今なっています。何で稼ぐかということです。これまで、いくつもの矛盾があったかなという気がします。例えば、企業誘致だとか、いろんなことを言うけれども、企業誘致ってほとんど製造業が多いです。でも実際、大学を出た学生たちは、製造業で働きたがらないです。IT関係だとか、事務だとか、そういう仕事がしたいっていう人が多い中で、そういう仕事もしっかり誘致できるならばだけれども、そうでないのだったら、やっぱりここに住んで通ってもらうことも視野に入れるって言うくらいのことも考えていかなければならないのかなというふうに思います。島田は、街の中では、シマアツだとか、おしゃれば一いずもそうだけれども、ずっとここで生まれ育って仕事をしている方たちに、ものすごく熱く島田を愛して、動こうとしている人たちが大勢いるというふうに思っています。この人たちのやる気っていうか、やろうとしていることをしっかり応援していくということも、実は若い人たちにこの町をもっともっと好きになって住んでいただける一つの方向性ではないかなと思っています。今、しましんの向かい側に、島田産業支援センターというのを4月12日にオープンしました。4月12日から30日までの間に、20日くらいで153件という、一件あたり1時間の相談時間で、そのくらいの相談件数がありました。これは、自分の会社の体力をもっと強くしていきたいだとか、融資の話とか、補助金は無いとか、あるいは商売を拡大したいんだけどどうしたらいいかとか、そういった様々なご相談、それ

から、起業、創業、新しくこの町で仕事をしたいという、そういった相談も数多く寄せられています。こうした、地元の一つ一つの会社を大事にして、1社が1人でも多く雇用できる、そういう体制を作っていくこともすごく大事な支援というふうに思っていますので、産業支援センターの方もしっかり力を入れていきたいなというふうに思っています。もう一つ、稼ぐ仕組みっていうことは、金谷の方に、島田金谷インターチェンジというのがあります。国道473号線で、川根の方に上っていく、金谷の方から行く道ですけれども、そこと新東名の交わる下のあたりに、NEXCO 中日本という高速道路の会社と、JA 大井川と、大鉄、島田市の4者が組んで、にぎわい交流拠点を、この2月に発表したばかりであります。農産物のマルシェや、海産物のマルシェ、レストランやカフェや、大鉄を見ながら食事をしながら、ものを買っていただけるようなところとか、様々な奥大井に繋がる観光拠点、そしてまた、金谷そして、島田を周遊するような場所を作りたいということで、島田市も新東名の下に大きな駐車場を、約1,000台近い駐車場を設置して、そこを一つの拠点にし、かつまた、金谷インター周辺は、県の内陸フロンティアにしている土地なので、今年、農振除外と受益地除外を、一生懸命取り組んでいます。それができれば実際に進出して来たいという企業さんからお話をいくつもいただいております。それから、市内の業者でも事業をもっと大きくしたい、あるいは、一度市外に出た会社がもう一度戻ってきたいというようなお話もいただいておりますので、とにかく、そういった新たな産業を巻き込んでここに雇用をつくるということを、今一番大きな力として取り組んでいるところであります。と同時に、金谷の大地の上の空港の近くになりますけれども、昔から、メッセを造るとかいろいろ話題になっていましたけれども、金中跡地という、金谷中学校の跡地、5.5ヘクタールという広さがあります。ここを、今、県との話の中で事業化をどうしていくかという話をしています。土地は島田市の土地であります。本来は、上物を県が建てるというお約束でした。でも、県は財政的にとても厳しくて上物を建てる余裕が無いという中で、民活を使ってあの土地に、にぎわい交流拠点となる施設、そしてまたインバウンドしたお客様や空港隣接の地域の活性化に資するもの、そしてお茶の郷がすぐそばにあります。お茶の文化、そして産業の発信基地といったような機能を兼ね備えたものをあそこに造ろうということで今、県と協議しているところです。これも、できるだけ早く、できれば28年度中にも事業コンペまでもっていけたらありがたいなと思っています。先日、アイデアコンペというのをやって、きっと皆さんの中ではそれに入っていた方がいらっしゃると思います。で、あの時は、富士見の湯って言って大きなお風呂で富士山を見ながらっていうコンセプトのものが、確か1位になったと思うんですね。あそこは、温泉を掘っても出るところではありません。富士山も冬場しか見えないところです。ですから、そこはやっぱり都会の人が見るのと我々地元に住んでる人が見るのとでは、見方がちょっと違うかなと思いますが、とにかく、あそこの土地が持っているポテンシャルとか優位性を最大限に生かせるようにこれからやっていきたいというふうに思っているところです。

#### ■市民会館の解体について

この5月の連休明けから市民会館の解体を始めました。事業着手しています。本格的に解体が始まっていくのは今月の終わり。もうそろそろ、地元の皆様への説明も終わる頃かなと思っています。予定ですと、11月の始め頃までというふうになっているんですが、できれば大祭に間に合うようにしたいなと思っています。請け負った業者さんにもよりますから、お約束はできないんですけれども、大きな建物ですので、壊すにも設計がいるということなので、なかなか時間のかかる仕事なんですけど、解体をいよいよ始めさせていただきます。何で2年も放っておいたんだとお話をよく市民の皆様からいただくこと



ろではあります。しかしながら、私の頭の中にあっただのは、島田市役所も、実は築 53 年、もうだいぶ老朽化しているんです。もし建て替えるとしたら、市民会館の場所しかないかなというように思っていました。合併してから 10 年間使える合併特例債というのも 5 年延長になって平成 32 年まで使えます。ですから、それにしっかり間に合うように、病院も合併特例債が使えるところは活用しながら使っていきたいということです。市役所も、同じように建て直すとなると、病院と市役所をいっぺんにやらないといけないという話になります。病院の方は、今のところ予算は 247 億円という予算規模を持っていますが、だいたい 50 億円くらいが医療機器を買うお金です。この医療機器は、減価償却が早くて、だいたい 5 年で借金を返さなければなりません。ですから、最初の 5 年間は返済が結構大変です。建物の方は、25 年とか、30 年のローンで返していけばいいんですけれどもね。ですから、市役所もいっぺんに建てるとなれば、最初の 5 年間は、相当厳しい返済をしなければならなくなる。私は、そのところは先程お話をした、島田を発展させるための投資の方にまわしたいという思いを持っております。ですから、市役所はもうしばらく、病院のお金もものすごく安くあがったというようなことであれば、また建てられるかもしれませんが、もうしばらく、市役所は、耐震性がありますので、使わせていただいて、それで、市民会館の方は更地にすることを決めました。国の制度の方は、あんまり急激には変わりませんので、昔は、今ある物を壊して新しいものを造るなら補助金が出たんです。けども、これからの時代は公共施設も減らしていかなければならない事態になって、壊すだけのものも出てくるわけです。でも、国の補助金は、これまではつかないという中で、今年、やっと除却債といって、起債をすることができるという国の制度も出てきました。それで、市民会館は、更地にさせていただいて、当面の間は駐車場とイベント広場、それから中心市街地の方々の避難所として使わせていただこうと思っています。新たな市民会館のご要望もたくさんの署名を持って来ていただきました。それは、本当に重く受け止めていますし、島田に市民会館があったことがどれだけ誇りであったかということも、私もよくわかっています。たくさんのバスが連なって来ていましたし、芸能人も、それこそピンクレディーもドリフターズも、みんな市民会館でやりました。県内で、1、2 を争うほど早くできた立派な建物であります。我が市民の本当に誇りだったし、大勢の方に来ていただいた。でも、1、2 番を争うほど早くできたってということは、それだけ早く、使えなくなるのも 1、2 番の速さで来てしまうということでもあります。この次、市民会館を建て直すという時には、市民会館だけで造るのか、あるいは、何かとの複合施設で造るのか、こういったことも協議をしていかなければなりません。現実、市民会館を壊す前の 5 年間についてデータを調べたところ、ホールを本番で使ったのは年間平均で 30 日でありました。練習日を含めても 50 日から 60 日いかないくらい。そうすると、週に 1 回くらいしか使っていなかったということも事実であります。そこに、新たなものを造るとなると、また相当な金額がかかってきます。今、お通りのホールもある、茶里夢もある、そして、夢づくり会館もあるという中で、どこも、600 人から 650 人くらいしか入らないんですけれども、でも、一応三つのホールがある中で、やっぱり大きなホールについては、今は広域で使わせてもらおうということで、焼津市民会館や菊川のホール等を使わせてもらって、そして例えば、島商さんがやる時には、これまでも使っていた方がやるときは 1 回あたり 50 万円の、バス代だとか、荷物を運ぶだとか、そういうお金を払わせていただいています。これからの行政というのは、今までみたいにどこの町にも博物館があつて、美術館もあつて、ホールもあつて、何もあつてついでという時代ではきっとなくなってきました。広域の中で、お互いに使いまわしをしていくということも、大事な視点になっていくかなというふうに思っております。

## ■市民病院について

病院の連携もそうです。ただ病院は、三つや四つの病院が手を組んで一つになるっていうわけにはいきません。それぞれの地域の人たちが、そこをよりどころにしていますから、島田市民病院も本当に市民のよりどころですから、そんなに簡単に一つにはなれません。ただ、連携はすでに始まっています。そういった連携をしっかりとつなげて、それぞれの得意分野も生かしながら、うちの得意分野には、焼津からも藤枝からも集まって来てもらえばいいし、うちのお医者様が少ないところは、よそにお願いすればいいと思っています。医師の確保も、実は新しい病院を造るのと同じだけ、非常に力を注いでいます。これまで、島田市民病院は京都大学系の病院と言われてきましたけれども、実は、京都大学からは、なかなか難しいよとはっきり言われています。静岡でも、静岡県立総合病院くらいしか面倒を見られないねというような、具体的な名前まで出ていまして、昔は医局制度というのがあって、教授が、あそこに行け、ここに行けっていうことで、島田の病院にも来れたけれども、今は、学生が研修する場を決める時代です。京都大学も、関西圏の学生が多くなってきて、なかなか静岡までは行きたくない、関西圏の中にいたいっていう方が増えてきました。そうした中で、私は、新たな連携は、浜医としっかり結んでいかなければいけないと思っています。地元の医科大学でありますし、公共の病院の医師の確保という意味では、やはり、浜医は使命があると思います。それから、6、7年前の学長さんの時から、静岡の学生さんの割合を多くとっています。来年の春から、年間に70人から80人くらいの医師が輩出できるということを学長から伺っています。そうした浜医出身の先生方にしっかりと島田に居ていただけるような、給料の面であったり、研修制度であったり、受け入れの体制であったり、住まいであったり、こういったものをきちっとやっていきたいと思っています。今、年に5～6回は浜医の学長にお目にかかって、医師の確保については、ずっとお願いをし、また多くの支援をいただいているという状況であります。

## ③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p><b>■防災対策について</b> この辺は区画整理が済んでいるからいいんですが、非難するのに、ここは二中、でもそこまでいかないと、この間の九州でも問題になったんだけど、物資の数なんか、だめだって言うんだけど、柳町、4丁目は、若い人が少ないから、国道を超えてあそこまで行くなんていうことができない。九州でもそういったことが問題になっていたものですから、一般的な地震の対策の避難地域といったものが通用しないというのがこの間の地震でわかったものですから、そういったところを、もっと私たちが安心できるような、今、シェルターとか防災ベットとか聞いたんですけども、実際、食べるものとか飲むものとか考えてもらって、年寄りを連れて二中まで行くっていうのはとてもでき</p>	<p><b>●熊本の地震は、活断層の地震、ここに想定される大規模な地震というのは南海トラフだとか、相模湾の海溝型の地震なので、その被害の規模もすごく大きいですし、揺れも強く長く続きます。この避難所は確かに二中です。でも、避難所に避難するのは家が壊れて住めなくなってしまった人とか、あるいは余震で家が壊れる可能性がある人なんです。基本は、やっぱり我が家で暮らすっていうことを徹底してやってもらわないといけない。それでも、我が家で暮らせても食べるものが無いとか、そういうことは実際起こってきます。これは、避難所に入っている人だけに、食料を配るわけではありませので公民館に避難している人もいるでしょうし、そういった実数を集約して、必要な人のところに食べ物がいかかっていうのは一つの課題ではありますけれども、それこそまさに普段のきずなという</b></p>

ませんので、この辺は区画整理をして広い場所があるし、市役所も目の前にあるから、でも市役所は防災の基地になるから行ってはいけな  
いと言われると、小学校だってこの辺にはいっぱいあるものですか  
ら、そういったところをもうちょっと考えてもらいたい。

関連ですが、歩歩路はこの場所の避難所として使えないでしょ  
うか。

か、地域力を発揮できたところは、熊本でもうまく統制が取れているん  
です。こういう柳町と4丁目の皆さんは常日頃からのつき合いがしっかり  
しているところですから、お互いに、あそこの家は困ってるとか、そう  
いう情報は入ると思うんですね。それらを集めて、食料や物資の供給とい  
うことにつなげていかなければならない。だけれども、もう一つ課題なのは、  
それこそ南海トラフ型のような大きな地震が来た時、この静岡県は、1週  
間は孤立するっていう想定がされています。3日分じゃなくて1週間分の  
備蓄をしていただきたい。1人1日2リットル、それを人数分、×人数分、  
×7ですから、本当にすごい数なんですけれども、とにかく、自分の命は  
自分で守る、地域の皆さんの命は、みんなの協力のもとで守るという気構  
えが一番大事なんだと思います。それから、避難所が二中なんですけれど  
も、大きな地震が来てみんな家が住めなくなるっていうようなときは、二  
中はすごく機能するかもしれませんが、例えば大雨が降って、台風で我が  
家で暮らすのが不安だっていうようなときは、高台でみんなが集まれる公  
民館のような所の方が避難所としては最適です。テレビもあるし、エア  
コンもあるし、座布団もあるし、お湯も沸かせるし、だから、その時々によ  
って避難する場所は違うのです。だから、避難所があそこだからって、そ  
ればっかり思わないで、そこは地域の中で、大雨の時は公民館を使おうと  
か、あるいは、歩歩路もね、避難所指定ではありませんが、実際、熊本を  
見ても避難所じゃないところにたくさんの方が避難しています。だから、  
現実はいろんな所に避難していくことになるだろうけれども、どこに、誰  
が、何人ぐらいいるかっていう情報の集約が、やっぱり地域の中でできて、  
それが例えば、自治会を通して市役所に上がっていくような、そういうシ  
ステムがすごく大事なのかなというふうに思います。

それこそ、けが人がいる場合には、救護所に行ってもらわないとなら  
ないし、本当に臨機応変にやっていかなきゃならないです。地域も一生懸命  
やるけど、行政もっていうことは、おっしゃる通り当たり前のことだと思  
います。行政も、年に何回も招集訓練だとか、30分以内に集まってきた  
人間だけで初動の対応をどういうふうにしようかとか、そういう訓練を重  
ねています。早朝の招集訓練だとかやっていますけれども、つい先日の5  
月12日に訓練をやったんですね。6時40分に地震ということで、全員に  
招集訓練をかけたんです。30分後に集まって来た人数は、全体の40%で  
ありました。でも、これは怪我をしていない、訓練だからできたことで、  
もし発災だとしたら、家族が被害にあっていたり、自分が怪我をしたりし  
たら出てこれませんから、出てこれる人数はもっと少ないと思うんですね。

		<p>そうした中で、どういうふうに関係を収集して、最初に何をやるべきかということについては、かなり細かく対応を取っています。道路の復旧も、業者さんにここからここまではどこの業者さんにやってもらうっていうところまで、細かく決めています。</p>
2	<p>■蓬萊橋について</p> <p>この間、日曜日に蓬萊橋に行ったんです。そうしたら、県外からの観光バスが5台ほど、大阪、奈良、京都、名古屋、富士宮あたりから来ているんです。若い子ども連れの夫婦、それから、中高年の皆さん方が、喉が渇いた、どこか飲むところないか、とか、お腹がすいたけど、軽食を食べるところが無い、トイレはどこだ、いろいろ、考えていらっしゃるようなことが出ました。その中に、この長い木の橋は、ギネスに載っているから、さぞ周りも整備されているだろう、文学碑もたくさんあるやに聞いてきたけれども、草ぼうぼうで見えない、マムシが出るから怖くて行けない、そういう陰の声を聞きました。それを聞いて帰ってきたら、回覧で、事細かに市長さんのお話を印刷したものが回ってきて、今持ってきました。それともう一つ、私の思っているようなことが、新聞に出ていました。ミズベリング協議会、先程お話のあった、やっぱり、市でこういうことを考えていくのださるなと思いつながら、今のお話を聞きながらいるわけですが、ギネスですので、それらとの関連をしながら、全国に島田市を発信する一つの場として、是非、他県から見学する方の立場、あるいは島田市住民の立場としてこういう会の中で意見を出されて、より良い蓬萊橋を全国に発信する場に作っていただきたいということを念願し、私は期待をしております。と同時に、全国に発信しているのは、ここにあります悪口稲荷、あれもすでに12年ほどたっておりますが、それも一つの場としてやっているし、町内としては、ここの自治会としては、3世代交流餅つき大会もやっておりますので、島田市の活性化というもの、より期待をしておりますので、私共も協力できることがあれば、させていただきます。</p>	<p>●蓬萊橋について、なかなか市が積極的に観光プロモーションに使えなかったというこれまでの事情の中には、蓬萊橋って、農道なんです。農水省に管理をいただいている。なぜかという、何年かに一度、橋脚が流されるんですね。で、億単位の修理代がかかるんですね。農道だと、国に直してもらえますけれども、あそこを島田市道にしてしまうと、何年間に一度流された時の億単位の修理代を、災害復旧という補助金が少しはありますけれども、やってかなきゃならないということもあって、長いこと、左岸から右岸への茶畑へ行く、それに使うの農道だという指定の中で、あんまり農道を観光に使ってバチバチやるとうまくないということがあって、あんまり大きく宣伝できなかったことは確かなんですけれども、それでもこの蓬萊橋が、リピーターが一番多い場所であり、やっぱりもう一度来てみたいと皆さんに思っただけの場所ですので、これは島田の宝物、財産としてしっかり管理していかなければならないというふうに思っています。花の会の方たちとかのご協力を得て管理しているんですけれども、花の会の方たちも、だいぶ高齢化して参りました。蓬萊橋のぼんぼり祭りが5月の末にあります。毎年毎年、実行委員の方たちがやってくださって、ありがたい限りですけれども、それも新しい人がなかなか入ってこないものですから、高齢化してるといっても実は実態です。こういったものに、若い人たちがどれだけ入ってきてくれるようにしていくかっていうことが、実は大きな課題だと思っています。今、「とと姉ちゃん」で蓬萊橋を使っただけのものですから、「とと姉ちゃん」の大きな看板を蓬萊橋のところに付けました。今月の末までは、夜間、橋脚のライトアップもしています。蓬萊橋に足を運んでいただけるような手だてをこれからもしていきたいと思っています。それから、「愛するあなたへの悪口コンテスト」は、まさに島田の文化力の発信だと思っています。市の方の応募は、そんなに多くは無いです。だけど、もっともっと、島田市民の皆さんに悪口稲荷コンテストの価値を知っていただく、わが町に悪口稲荷コンテストがあるということ、我が町の自慢の1つにしっかりと加えていけるように公募していきたいなと思っています。村松先生も、本当に島田に打ち込んで、毎年来ていただいていますので、しっかりつなげていきたいなと思っています。私も、その年の冊子を県外や市外のいろ</p>

		んな方に配って、やっぱりすごく楽しみに待ってくださっていると思っています。
3	<p>■川会所について</p> <p>川会所は全国に1ヶ所しかない。昔、小学校に使われていて、父の時代に買い戻して、島校の西側の大井川公園に移築していたんです。ところが、戦後、引き揚げ者があそこに2組住んでいまして、そして、私が夜な夜な、あそこへ行って交渉をして、それで立ち退いてもらったという経緯があるんです。それはまた移築しましたけれども、あれは非常に珍しい建物なんですけれども、観光面に使っていただきたいと思っています。</p>	<p>●川会所も文化庁指定の、あれは面として指定されているのではなくて、それぞれ建物ごとの指定で、なかなか国の指定を受けると、その活用の仕方だとか、保存の仕方とか、とても厳しい条件があって、空いているところに、家を建ててつなげていきたいと思っても、歴史的にこういう建物だったという設計図のようなものがあって復元できないと、なかなかそれも許可できないとか、せっかくあるんだから少しおしゃれな小物でも売ったらどうかと思うんですけども、そういうこともできないという中で、活用はなかなか難しいところがあるんですけども、今、ヒストピア島田ということで、博物館、それから、河原町の番小屋の通り、そして博物館の分館までをヒストピア島田で、全体で、面的に活用して行こうということでやっています。今年も様々な企画をやりますのでお願いしたいなと思います。</p>
4	<p>■道路の関係について</p> <p>道路関係の件ですけども、大津通りが非常に広くて、すごく運転しやすい道路になりまして、ずっと延長して、野田インターチェンジの方まで行きますところで、市民病院への右折の車で、あそこが渋滞になってネックになっているんですけども、先程、新病院の建設の件も説明を受けたんですけども、あそこはなんとか、もうちょっとスムーズにならないかと思っているんですけども。それとあわせて、バイパスが、今2車線化を始めているところがあるようですけども、これは、島田市単独の関係というよりは、国土交通省とか、大きい団体と絡んでくると思いますが、その二車線化の進捗状況をお伺いしたいと思います。</p>	<p>●大津通りは、野田インターから堤防まで出る中心市街地の中の幹線道路という位置付けで、電柱等も埋設をして、29年度には、たぶん地中化をされて、旧国一のところまでは、外側に電信柱も電線もない綺麗な通りになると思います。市民病院の右折レーンの件ですけども、これはもう、重々承知していて、病院のことだけではなくて右折レーンを含めた、病院の周りの道路の体系の見直しが必要だということがわかっています。市民の皆様には、例えば、大津谷川の兩岸を走るだとか、抜け道を用意したらどうだっというような話をいただくのですが、でも、地元の元島田の人たちにとっては、生活道路だからそんなところまで車が入ってもらっては困るというご意見もあつたりします。そうした中で、今の道路にしっかりと右折レーンを造って、渋滞を回避していくということです。今のところが、右折レーンを造るところになるのか、もう1本北側のところになるのかは、新しい病院の建設の設計の中で、メインの入口がどこになるかっていうことが決まってくると思いますが、病院の敷地を少し提供してでも右折レーンをしっかりと造っていくという予定であります。去年まで、あの通りは国道だったんですが、県道に払い下げになっています。県との協議もしっかりとしていかなければならないと思っていますので、県との協議の中でしっかりと右折レーンを造って、病院に入っていく渋滞を少しでも減らしていくということをしていきます。それから、島田金谷バイパスの四車線化の話ですが、先日は、藤枝バイパスの四車線化が事業化ということで</p>

新聞に載ってたと思いますが、藤枝バイパスは今まで事業化されていない、計画されていなかったものですから、今、大きく事業化ということで載っていますけれども、野田インターまでの島田金谷バイパスについては、すでに事業着手がされていて、皆様も新大井川橋を渡る時に、冬の間、大きな土嚢がいっぱい河原に積んであって、工事をしていたのをご存知だと思います。一番最初の事業を、新大井川橋を四車線化する事業から始めています。ただ、6月から10月頃までは大雨が降って水が溢れることがあるものですから、仕事できません。11月から5月くらいまでの間に、工事を集中させながらやっているんですが、今、地下に埋設する、減圧して地下の本当に深いところまで工事をして、あとは、上につければいいようになってきました。これが、今年の秋から来年の春ということで、橋脚のところはできていく、で、上に乗せていくという形になります。小夜の中山のトンネルもあります。大代インターの付け替え等もあります。実は、四車線化となると、今のインターの出口では回りきれなくて、もっと大きなフルインター化をつけなければいけないということもあるものですから、なかなか大変な事業であります。昨年までは、平成30年代の半ばということ言われておりました。今は、国交省の予算のつき具合によるというふうに言われてしまいます。今日も、午前中、そのバイパスの期成同盟会とあって、建設促進期成同盟会というのが掛川であって、磐田、袋井、掛川、島田の首長が集まって、国交省に早期の完成を要望するという会議がありました。年に何回もそういった会議を重ね、国交省にも要望活動に行き、名古屋の中部地整にも要望活動に行きながら、とにかく、早く完成させてもらいたいということで、お話をしています。道路って、造るのにとても時間がかかるということも事実なんですけれども、本当に速やかにやってもらわなければいけない。この国一バイパスの四車線化というのは、それこそ災害の時に、静岡県は、大量の物資が御前崎港に入ってきます。そこから473号線を上って菊川インターから国一バイパスにのって、大代で降りて、新東名から県内に物資がずっとわかれていくという想定をしていますので、命の道だと思っています。この命の道の早期完成については、本当に要望活動を重ねていますので、国道473号線も、倉沢インターから菊川インター、菊川インターも、今は東にしか入れないんです。これを、フルインター化して、浜松の方に行けるフルインター化も、すでに用地買収に入っていますので、こちらの方も、しっかり事業をつなげて参ります。

<p>5-1</p>	<p>■空き家対策について        空き家対策について、昨年法律化されたということも書かれているんですが、どういうことか教えてください。</p>	<p>●空き家対策は、二つ種類があると思うんです。中山間地の空き家は、そのまま、よそから越して来てもらった方たちに、そのまま住み続けてもらえばいいっていうのを、川根の方でやらせてもらっています。皆さんがおっしゃるのは、たぶん、街の中の空き家だと思うんですね。特定空き家推進法というのが去年の4月にできまして、今までは、税金対策として、更地になってるよりも家が建っている方が固定資産税が安かった。だいたい6分の1でした。これを、1年以上人が住んでいなくて、持ち主もそこいなくて、通学路として危険が及ぶとか、誰だかわからない人が住み込んでしまうとか、災害が起こったときに倒れるかもしれない、というような家を、特定空き家と認定して、1年以上住んでないということがわかれば、更地と同じだけの税金をかけるという法律の改正が去年ありました。今、島田市はその特定空き家の認定を進めているところです。どこに、どのくらいの数、どんなふうな状況なのかということ調べています。と同時に、持ち主が誰なのかということも調べています。課題は、地元に住んでいる人でそういう家を持っている人は、あまりそのように放置しておきません。やっぱり、相続の関係でその家をももらったけれども、本人はここに住んでないとか、たまにしか来ないとか、そういう方たちが大きな問題になりつつあります。それで、特定空き家と認定したとして、壊していただけますかというお願いを行政はします。しかし、お願いしても聞いていただけない時に、行政が壊す権利を、今度の法律は認めました。だから、行政が危険だと思えば壊すことができるようになったんです。壊したお金は持ち主に請求することになっています。ところが、持ち主に請求しても払わないっていう人も多くて、全国的に、特定空き家のことについて一生懸命やっている自治体の中には、市民の税金を使って個人の家を壊すと、そしてそのお金が行政の負担ではおかしいんじゃないかっていうような課題も、実は出て来ています。今、島田という10万人規模の町では、こういった危ない家のことについては自治会長さん達もご存知ですし、地元の方たちもいろいろと情報を寄せてくださいますので、これをしっかり認定して、1年間住んでいないということはきちっと確認をして、特定空き家の認定を進めていきたいと思っています。それと同時に、空いてる家に住んでくれる人をどう増やしていくかというような施策もしていかなければいけません。今、県外から移り住んで来てくださっている人たちには、マンションでも、中古の住宅でも、新しい家を建てるでも、120万円までの補助金を出しています。様々な施策をうっているんですが、県外と言わ</p>
------------	---	---

		<p>ず、この周辺から住んで来てくださる方を増やすということが、とても重要な施策になってきています。ここのところ、近隣の人口の移動について少し調べをしていたんですが、藤枝は人口が増えているって皆さんおっしゃいます。これも、いつまでそういう状況が続くかっていうこともあるかもしれませんが、ざっと見たところ、島田は、牧之原、吉田、御前崎、川根本町、焼津、こういったところからは、うちから出て行くよりも入ってくる人の方が多いです。沿岸部が多いですね。沿岸部の、津波が危ないと思う方たちが、島田に移ってくる方のほうが、うちから出て行くより多いということです。川根本町さんは昔からのつき合いの中できつと出てきてくれていると思うんです。逆に、うちから出て行く人数の方が、入ってくるよりも多くなっているところが、藤枝、静岡、浜松、掛川、というあたりなんです。やっぱり、仕事のあるところに出て行ってるのかなという傾向が、少し見えてきます。特に、藤枝は家を建てるときに移って行ってしまっているんじゃないかなと思っていて、そのあたりの対策をしっかり立てていきたいと思っております。つい2、3日前も藤枝に引っ越した人の話を聞きましたが、税金が島田より高いということは、言っていました。だから、税金のことも含めて、島田は暮らしやすい町だということをもっともっとアピールして、市内の企業の人たちにも、それから、島田市民にも、島田がどれだけ暮らしやすい町かということをもっと浸透させていくという必要があるかなと思っています。そのことによって、よそから移ってくる人たちも増えてくる。そういうパンフレットをしっかりと作って、売り込んでいきたいというふうに思っているところです。こんなふうに細かく見ていくと、どんな形で人が動いていくかっていうこともだんだん見えてきますので、これを、これからの施策にしっかり反映していきたいなと思っているところです。</p>
5-2	<p>■空き家対策について      空き家になっているということがわかって、活用法とかそう言ったのを、早く話をして手だてをうったりできないですか。どうせ後から、県外から来た人たちに貸してあげるといことになるのなら、税金を使ってその空き家を壊すということにならないように、空き家になったっていうのがわかって、連絡がつく家族がいるのなら、何か良い方法を考えて、使うようにするとか、そういったことって何かないですか。      最終的に近隣の人たちが困るっていうことになるんです。家があるってことで火事になったりしても困るし、地域の人たちも困るので、</p>	<p>●中山間地も、実は越してきただけでは雑草に負けて、また都会に帰ってしまうということになってしまいますから、地元の方たちにいろいろと応援していただいて、コミュニティに入ってもらえるような、その支援まで見て、空き家を活用しているんですけども、それでも難しい課題があるのは、ずっと住んでいないんだけど、お仏壇があると、なかなか他の人は住めない。それから、物置のようになってはいるんですけども、いろんな家財があるとか、それから、年に1回だけは夏に帰ってくるだとか、そういうお宅があって、なかなかいい家が残っていても、そこに定住ですつと入ってきてもらうためには、やっぱりそういうお仏壇をどっかにやらなきゃいけないとか、そういう課題があって、どこ</p>



	<p>こういった法律ができたのなら、それを逆手にとって何かいい方法は無いのか。山間部では、良い活用方法で、地域の人たちと仲良く暮らしたりっていうのがあるんですけどね。</p>	<p>もかしこも行けるっていうわけではなくて、いろいろと難しい課題はあります。</p>
<p>6</p>	<p>■大祭のこと、地域のことについて</p> <p>第4街、4丁目、大川町、柳町が年番というのを受けてやるんですけども、それに際して、なかなか、いろんな本部を開くとか、ここにいる青年は本当に少しで、人数の問題もそう、大祭に当たり、市の援助、屋台を組み立てる場所なんかを協力していただいているんですけども、何分にも、すごく援助していただかないと、この地域だけでやっている力だけでは、もう到底、観光面でも協力はできないし、資金的にも、それこそ住んでいる人は少ないものですから、とてもかなわないことになりつつあります。大祭に関しては、うちの息子も、今度は年番長ということで、それこそまだ勤めて、前回の青年長をやったときも、東京に勤めていたのを帰ってきて勤めて、今年、年番長という役目をやっているんですけども、商売をやりながらものですから、いろんな交渉事にしても、昔は隣の若い衆と話をするっていうことができたんですけども、なかなかできないっていうこともありますので、莫大なる市のバックアップをしていただかないと、10年前、20年前のようなことでは成り立たないと思います。</p> <p>それが1つと、区画整理が終わりまして、先程高齢化率が自治会としては35%って言いましたけれども、4丁目だけをとるともっと多いはずなんです。65歳とって、私も十分入らせてもらっていますけれども、十分まだ若いつもりでいるんですけども、子どもがいない、跡取りがいないっていうところで、もっとひどいと思います。そこへもってきて、役回りというものを辞めることができないんです。自治会長を2期ほど前にやったんですけども、いろんなお付き合いがなかなかできない。保健委員だの、交通委員だの、いろいろあって承知しているんですけども、できない。商業地域だもんですから、ましてや少ないんです。全員で商いをやらなければならない商店なんです。そういうこともあって、なかなか他町さんとのお付き合いが不可能に年々なっていくと思います。</p> <p>それと、区画整理後に住民が減ってしまったということと同時に、おび通りとかのメンテナンスなんか随分できてないと思うんですけども、景観の重点地域に何年か前にグレードアップしたような感じなんですけれども、景観形成は、区画整理をやるときに集まって、こ</p>	<p>●ちなみに、島田市が大祭にどのくらいの補助金を使っていると思いますか。3,650万円を今年のお祭りには出しています。うち、1,250万円は観光協会を通してお祭りへ、そして残りの2,400万円は保存会へ出しています。3年前に、市長になってすぐにお祭りだったんです。市長になってすぐに、何を決めなきゃいけないかっていうと、前夜祭をやるかどうかという話でした。あれは、1年も前からきちっと決まっていなくて、その予算が確か400万円だったと思うんですけども、それも祭りに上乗せして払わせてもらった。今年も、同じようにすべてのお金を減らすことなく、お祭りの方につき込んでいます。ある意味、今年、いろんな意味で祭り関係の予算が1億を超えています。そうした中で、資金的にも苦しい、人数も苦しい、今年、四街さんは年番ができるけど、次回は、五街になったら、もっと大変じゃないかというような話とか、このままじゃできないっていうことをずっと聞き続けていて、3年前もそういうお話が多かったです。今年、だからこそ、あんなにみんな、そうおっしゃっていたから、終わったら何か次のことが始まるかなと思ったけど、やっぱり終われば「ああ、よかったっけ」という話なので、2年前から実は、準備を、今回初めて実行委員の皆さんにも動いていただいて、いろいろ決めていただいたりしています。それでもまだ、お休み処だとか、大名行列をどうするだとか、場所はどうするんだとか、そういうことは、最後の最後まで難しい課題があるのかもしれない。確かに、区画整理が終わって、新町通りだとか、あぁいったところも、随分人数が減ってしまいましたし、区画整理をしたことによって街の中の人数が減って、祭りがなにお大変ということもあるし、実際、どんどん高齢の人が多くなって、若者が減ってきて、つないでいく事が大変ということもあるし、それから、私が思うに、各街ごとに、スポンサーになっていただける旦那衆がやっぱりいたんですよ、その旦那衆の皆さん方が、どの街もそうですけれども、もうほとんどその旦那衆のお金でやってもらって、あとはみんなが少しずつ集まればやれるっていう時代もあったんですよ、でも、もうそういう時代ではなくなって、祭講も、お金を入れるやつをまわして、島信さんに預けて、3年間みんなで貯めて、盛大にやろうって言ったって、それも商店街がシャッター通りになってきている中で、そういう世の中の変化の中で、財政的に大変厳しい状況だっ</p>

ういうように、AゾーンとかBゾーンとか言って決めたことがあるんですけども、今に至ってはなかなかそれを、目の前の枯葉、目の前の人やろうといっても、それこそさつきも言いました高齢化に繋がってまして、できなくなってます。それで、地面が割れたり、その水路だって汚いままになっていますし、僕らが守ることは守らなければいけないんですけども、ペンキの外壁の色はこうだあだだっていうことは守らなければいけないんですけども、管理の面をもうちょっと市の方で、誰か専任を置いていただいて、もちろん住民も手伝うでしょうけれども、ちょっとリーダーシップを取っていただきたい。それで、商業地なんかに道路灯も何機かあるんですけども、それと同時に街路灯、夜間が暗すぎるので、それで道路灯も、しょっちゅう消えているところがあったりするものですから、これもLED化にはならないのかとか、街路灯も増設ができないとか、我々にかかってくる費用分担が多いと、それこそお祭りの費用と同じでなかなか捻出できないというデメリットもありますけれども、街全体が防火、防災地域として設定されているようですので、その辺も含み置きいただいてやっていただきたいなと思います。又、若者たちが住みやすい場所とか流入しやすい環境とか、施設とか、街中へ誘導できるような、商業的な観点から言ってはいけないかもしれませんが、そう思います。蓬莱橋もいいけれども、博物館もいいけど、昔は、迂回型の何とかがあって、街へも集積できるような、そういうようなものも、点だけでは終わらずに、流れてくるような。

また、祭りについては、ここだけの人が楽しんでやっているわけではなくって、市の補助もいただいてやっていたり、参加の人も先程言ったように95%くらいが市全域において4丁目の四街に集まっていたいて、（四街で参加する人のうち、四丁目の若者は95%くらいが四街以外の方）でないとなり立ちませんので、飲み食いは自分たちがお金を払っていますので、なかなか思うように、昔のようにできないものですから、観光的な見地からも考えていらっしゃるのでしたら、市に任せるではないんですけども、どこへ本部を作ろうとか屋台を作ろうとか、何を言っても土地が無いものですから、どうしようもないんです。できるだけ、できる範囲内で、今年は年番ということもあるし、これから佳境に入ってくるものですから、知らない人間が集まって祭りを形成しようとしているものですから、余計大変なんです。

ということは、これはもう致し方のない現実だというふうに私はそれはそれで思うんです。じゃあ、その部分を行政が資金を足していけばいいのかっていうと、これもやっぱり、限界があります。というのは、お茶まつりとか、大祭の何分の1っていうお金しか出していません。まして、地域の他のお祭りに行政はそんなにお金を出していないんです。本当に、島田大祭だけ特別です。島田大祭は、本も読み、実際にいろいろと見聞きし、勉強させてもらって、まさに世界に誇れる文化だと思っています。昨年でしたか、徳川家康400年祭で、祭りが10集まりました。でもその中だって、300年祭のときに出たお祭りは島田大祭しかなかった。本当に、わが町の誇りです。だけれども、時代と共にずっと同じことをやり続けるのが難しくなってきた。3年前には、中学生を入れてもらえないかって言ったら、やっぱりお酒も飲むしということで、中学生は難しいって言われたんですけども、今回は、本当に地元の方たちが学校に行って祭りの文化や伝統を教えていただいて、地元の中学生たちもお祭りに参加するということになってきました。これを、いかに、ある意味、島田全体の祭りにできるかって言うところも、実は、資金と人をつなげていくためには、大事なことなんです。けれども、全体の祭りにしていくためには、お気に障ったら申し訳ないけれども、同じ日に、よそでは別の祭りをやっているんですよ。すなわち、よその人から見ると、あれは街の中の人の祭りだって思っているんですよ。これまで、出たいって言っても出られなかったし、街の中の人たちがずっと守り続けてきて、同じ秋の10月に、自分たちは市内のあちこちで別の神社のお祭りだとか、いろんなことをやっている中において、今からは、人が減ってきたから島田大祭を島田中の祭りにしてくださいといったときに、やっぱり、コンセンサスを得て、1つにしていくっていうのは、結構大変なことだなって思います。それぞれが、別の祭りをやっているっていう現状の中で、そういう中では、島田の大祭がどれほど価値のある祭りで、島田の誇りだっていうことを全市の市民に伝えていくことですよ。特に教育の中でしっかりと島田大祭の位置付けっていうのを教えていくことだと思うし、街の中の子どもたちじゃなくても、大祭に毎回参加していく、そういう子どもたちをつくっていくことが大きくなってからもずっと祭りに関わることだろうなと思っています。そういうやり方をこれからはしていかないといけないなというふうに思っています。祭りも、もともとは大井神社さんのお祭りだから、我々は、観光の面やいろんな面で行政としてのお手伝いは最大限するけれども、でも、主催者ではないものですから、そんなに口出ししたり、あれこれっていうようなこと

はできない、協力という立場ですから、そこが大変に難しい現実だと思っています。是非、いろんな話をしながらこれからどうしたらいいかっていうことを決めていかなければならない。祭年ではなくても、毎年100万円くらい、衣装代の更新ということでお手伝いをさせていただいています。衣装とか、お道具類の更新とか、そういったこともきちっとやりながら、島田大祭が繋がるように、全力で支援していきたいと思っています。それから、区画整理が終わって高齢化が顕著になってきた、役回りもなかなか続けることができなくなってきたというような中で、おび通りのメンテナンスができていないと、景観の重点地域だけれども、市にもっとリーダーシップを取ってもらいたいというお話がありました。この間、おび通りを歩いていたら、北の方の、せせらぎのところ、水が流れているところに藻がいっぱいついてしまっていて、汚くなっているところに、さらさらで一つ一つ掃除をしている人に会いました。女の方でした。行きも帰りにもあったものですから、もしよかったら後ろ姿だけでも写真を撮らせてもらえないかって言ったら、だめだって言われてしまって写真を撮れなかったんですけど、後で聞いたら、おび通りの人ではないんですよ。せっかくだからここを綺麗な流れにしたいって言ってやったださる方がいらっしゃるんですよ。本当に頭が下がりました。お話を伺ったら、最初のうちは、シルバーの人とか、行政から来たのかとかいろいろ聞かれたって言うんですね。もっと聞きましたら、前は行政がやってくれていたのに、この頃やらなくなったって話も耳に入りました。本当にそんなふうにしてたのかどうか、ちょっと調べました。そうしましたら、区画整理の事務所があったんですけど、その頃は、区画整理の職員が自主的に綺麗にしてやっていたんです。ところが、区画整理の事務所が無くなって、そこに職員がいなくなったものですから、それでやらなくなったってことで、最初からそれが、行政の仕事としてあったわけではない。ただ、そこに職員がいたから、職員たちは自主的にやっていたということですね。市がリーダーシップをとってメンテナンスしなきゃいけないっていう考え方もあるかもしれないけれども、自分の家の前の落ち葉は自分で掃きますよね。もちろん、行政も、景観の重点地域ですから、やらなきゃいけないこともあります。でも、やっぱり自分の家の前のことは自分たちも協力してやろうっていうことがなかったら、これから街は、綺麗になっていきません。私は、今回はおび通りのメンテナンスのことだけでしたけれども、実は、街路樹の事でも同じようなことを思っています。街路樹が、雨樋に詰まる、あるいは滑って転んだらどうするんだってたくさんお電話

		<p>をいただいて、秋口を前にして真っ青な葉っぱがついているうちから、全部切っちゃうんですよ。駅南の横井の通りなんかは鉛筆みたいになっている。痛々しい、そういう街路樹になってしまうんですね。皆さんが、本当に街路樹を必要としないんだったら、もう切って、低木のサツキでもツツジでも植えたらいいと思います。街路樹が必要だと、それが、景観も良くなるし、島田市民のその民度みたいなものも、その街路樹に現れると思うんだったら、みんなで、葉っぱが落ちるときは、シルバーへ頼んだり何だりして、葉っぱを掃くことはできるでしょうし、皆さんにもお手伝いしていただいたり、あるいは、はなみずき通りのはなみずきが、水がなければ育たないものですから、本当に枯れてたり大きくなかなかたりしているですよ。自分の家の前のはなみずき一本だけでいいから、ちょっと面倒を見てやろうってみんなが思ってくれたら、変わっていきますよね。そういうことが、これからのまちづくりに必要だと私は思うんです。それを是非、皆さんにご理解いただきたいという思いもあって、こんな車座トークをやっているんですね。</p>
7	<p>■おび通りについて おび通りの南側のスノコが評判が悪いです。下が、木の板になっているんです。産業祭なんかで食べカスがいっぱい落ちたりなんかしても、普通の地面なら掃いて掃除もできるけれども、スノコの中に入った食べカスは掃除しようが無いものですから、夏はゴキブリの大量発生のお巣になっているんです。非常に評判が悪いです。あれは、例えば木の町島田で、木を生かすんだったら、気のタイルにして埋め尽くしてしまうとか、そういう方法も取れるんじゃないかと思っているんです。</p>	<p>●これは、都市基盤部に見に行かせますので、ちょっと検討をさせていただきます。</p> <p>※土木管理課に対応を依頼。</p>
8	<p>■緑道の落ち葉について 落ち葉の話ですが、柳町の家の前に緑道をつくっていただいて、以前から、家の前の落ち葉を取ってくださってということ言われて、一生懸命やって、雑草をとったりしているんですが、その当時は仕事をしていて、土曜日と日曜日しかなくて、家の前以外のところ</p>	<p>●そういったメンテナンスについては、しっかりと委託業務っていう形ですけれども、民間にやってもらうように契約をして、やってはいるんです。これは、地域でしっかり話し合う課題だと思うんです。</p>

	<p>に、家が無いところの雑草なんかは、家の前だけとったりすると、そっちもなんていうと、ごみ袋が幾つあっても足りないんです。一度頭にきて、家の前から、緑道全部やったら、リヤカー3杯4杯、そういう話なんです。だから、目の前の落ち葉を取って下さいなんていうのは、家がずっと続いている緑道ではないんです。だから、言うことはわかるんですが、生活の中でやることは大変なんです。そして、あそこの緑道も、大きい木は、高くなってしまって、葉っぱだけ落ちて、緑道の木は切ったりできないじゃないですか。だから、結構早いうちにやってくれて、本当に、年寄りが家の周りを掃くのが必死なんです。だから、緑があることはすごくいいことだって理解はしているんだけど、秋の落ち葉、その時の掃除っていうのは半端じゃないです。だから、今言ったように、気持ち的には目の前の花とか、水掛けとかっていうのも全部わかるんだけど、実際の生活の中では、なかなか理解しがたくなってくる環境です。前は目一杯になるまでやってくれなかった。草がぼうぼうになって歩く道が無い。もう20年経つけど、10年くらいは、よくこんな緑道があるところに住んでるねって、見知らぬ人が通って言われてたんです。</p>	
9	<p>■家の周りのメンテナンスなど  自分の家の目の前のものをですね、みんな市にやってくれって言うてるわけではなくて、自分の家の目の前のことくらいは、自分の家の前が歩道であって、自分のものじゃなくなつて、当然やっている中で言うてるわけです。私は、市に全部やってくれなんてさらさら思っていないけれども、私たちの力だけでは、なかなかできなくなっていますし、地面が盛り上がってきたり危なかったりするような環境のものを、ちょっとメンテナンスしてみてくださいと言ってるわけです。それでいて、お祭りも、それこそ掘り起こしで、和文化の四街のお囃子とか他の街の人も三小さんとか、そういうところに行って、そういう活動はもちろんしているんですけれども、エゴで言ってるとか何とかではなくて、見守ってください。お金をたくさんくださいとか、そういうことではないんですけれども、できるだけ、ソフトの面でのご協力をいただければありがたいですっていうような意味で言ってるわけです。</p>	<p>●ひび割れがしてきているとか盛り上がってきているとかっていうのは、是非一報をいただけますか。</p>
10	<p>■道路のブロックについて  本通り4丁目の、一番南端で、4丁目と大川町の境、西村畳屋さんの1本北の道の角のところでブロックが1個ボコって出ているのを2</p>	<p>●わかりました。それは、しっかり見て確認します。  ※土木管理課に対応を依頼。</p>

	<p>日ほど前に、つかかったんですけれども、2日では直らない気がするので、まだ出ているような気がするんですけれども。</p>	
<p>11</p>	<p>■今後の島田市における税制の優遇について</p> <p>島田市の地方公共団体の首長さんである市長さんが環境とか、福祉とか、文化とか、衛生とか、教育とかイベント、いろんな施策にバランスよくお金を使われている、また、随分御苦勞されていることと思います。ただ、先程も市長さんはちょっと触れられましたけれども、2025年問題点に触れられましたけれども、確かに、首長さんとしていろんなことをバランスよくやられている、それは結構なことだと私自身は思っていますけれども、ただ、今、島田市として何かカンフルを打たない限り、今、島田市として何を最重点にするのか、そのカンフルとして、個人的には税収もあげなければいけないです。若い人にも住んでいただかなければいけないと思います。あえて、誤解を恐れずに発言いたします。企業とか、学校とか、住む人、市民ですよ、こういうのを多くしていくってどんな方法があるのか。時には、極端な方策をやってもいいんじゃないかなと。例えば、税制です。税制の優遇とか、一時的にはその部分で税収が下がるかもしれないけれども、3年後、5年後とか10年後で、人口が増えていけば、バランスが取れていけば、税収は維持できるわけですから、1つには税制に手をつけるってということもあるのかなと。もちろん、今私は簡単に言いました。企業の誘致だ、学校の誘致だっていうのは、楽な話ではないんです。ただ、どうしたって、最終的には若い人に住んでいただかなければ、もうこの島田市って、先程市長さんがおっしゃったとおりの高齢化して、若い人が少なくてっていう状況になっていくのでね、市長さんが3年後、5年後を考えて、この島田市で、こういうことを何か力を入れて、それによって人口の減少を緩やかなものにしようという、何か、施策を打ち出していただけないかなと、それには市長さんも風当たりが強くなることもあるかもしれないですけど、そういうことを、何かやっていただきたいなと。何か打ち出していただけないかなと思います。</p>	<p>●とても大事な視点でお話をいただいたと思っております。ある意味、右肩上がりの時代には、そういうことをボーンと打ち出しやすかったです。例えば、20 数年前から静岡空港を造ろうっていうような大きな夢を掲げて、これをやれば、島田は変わっていくんだという中で、経済界も、行政も、市民もみんな1つに打ち込んで、この夢をかなえてきたわけですよ。ところが、時代的に、そういう施策をするのが大変に難しい時代になりました。新幹線の新駅なんかも、実は1つの良い例です。新幹線の新駅も、それがあれば、地域の振興に必ず繋がっていくと思います。ただ、今、現実的には非常に難しいと県は言ってます。2020年というすぐ目の前の、防災とオリンピックのことだけを言っていたのでは、やっぱり地域振興という絵をきちっと見せていかないと、地元は塗りにくいということもあってですね、リニアができた後という話であれば、新幹線新駅は、それに向けて皆さんと一緒に国や県に要望しながら、この地域を変えていく、1つの旗印としてやっていくというのは私も思っています。ただ、今それをなかなか言いにくいという時代背景もあります。そうした中で、まず、若い人たちを増やすには、基本的には仕事と住むところだと思っています。この、仕事と住むところを作って、住むのにこちらを選んでもらえるその条件として、今、島田は子育てとか教育だっていうところに力を入れているわけです。税制もさっき言ったように、御前崎はうんと安いけれども、近隣の町と比べれば、島田の税率は安い方です。企業などには、誘致で入ってきた場合には、最大3億円補助を出しています。様々な控除であったり、緑地にしなきゃいけないような、そういったものを、3割を緑地にしなきゃいけないっていうものを2割でいいよっていうことであったり、そういう優遇的な施策を出して、島田に是非来てくださいというようなこともやっています。ただ、そうしてやっていることはなかなか、市民の皆さんのところに見えてないっていう、今のお話を伺いながら、私自身は思いました。人口も増やす施策、確かに、これからやっていかなければいけない施策です。一方で、日本の人口はこれから30年間、1人の女性が子どもを2人産むようになっても減り続けていきます。合計特殊出生率が2.0を切ったのは1975年でありました。もう、40年も減り続けてきた。だけど、施策として、それが見える化されて、みんながこれじゃ大変だってなるまでに40年かかったのです。やっぱり、これが安定的に若い人たちが増え</p>

		<p>てきて、活力のある世代間が均等に行くようになるまでは、また40年くらいかかるのではないかなと私は思っています。そうした中で、若い人たちを増やす政策と同時に、実は人口減少を前提として暮らしやすい町をつくっていかねばならない、というところが、世の中はみんな元気なことばかりをいうような社会ですから、景気を上げていく、経済を成長させていくことだけが、1つの価値感みたいになって国も挙げていっています。そうした中で、人口を増やす政策と同時に、人口が減っていく中でも、島田は豊かに暮らせる、そういう町をつくっていかねばならないということを、私は思っています。私は、その見せ方として、まさに、経済の成長と若い人たちを増やすための政策のカンフルを打てという話だと思っていますので、これを、税制の思い切った施策が良いのか、いろいろな課題はあると思うんですが、先程お話をした金谷のことだけではなくて、まだ全く決まっていないことだから先程お話しませんでしたけれども、例えば、駅南の特種東海製紙が横井工場を持っています。あそこは4.5ヘクタールあります。でも、今年の夏で、来年の春までには操業をやめるといふふうに聞いています。その土地の利活用を、どういうふうにしていくかというようなことも、実は、これからの街の中が変わっていく、すごく大きなポイントになるというふうに思っています。民間の土地ですから、行政があれこれは言えません。だけれども、協力して一緒にやろうということではお話をさせてもらっています。是非、地域の活性化に資する、若い人たちが入ってこれるようなものを、あそこに重ねていきたいなということで、少しずつ話をしています。ただ、皆さんのところに、こういうものができますとか、ああいうことをやりますとかって、まだ話せる段階ではないというのが1つあります。いろんな施策っていうのは、種をまいて、それが目に見えてくるころまでとても時間がかかります。仕込んで、それが目に見えて、成長して刈り取るっていうところまでは、本当に長い時間がかかるなと思っていますが、様々な仕込みをしながら市民の皆さんに、この頃島田は元気になってきたということを実感してもらえるように、やっていきたいと思っています。今すぐに、これがカンフル剤だって1つに絞って言えないことは、私も忸怩たる思いがしますけれども、いろんな手だてを打ちながら、どう見せていくかってことも含めてしっかりやっていきたいと思っています。</p>
12	<p>■同一労働同一賃金について 私も、人口をアップっていうよりも、緩やかな人口ダウンだと思うんですけど、先程、税制の話もさせていただきましたけれども、本当</p>	<p>●同一労働同一賃金の問題は、島田市だけっていうわけにはいかないし、経済特区であったり、国の政策であったりっていうことが必要ですし、それが進んでいくと、島田は企業進出が進まなくなってしまうっていう逆な</p>

	<p>に誤解を恐れずに言いますけれども、same work same timeとか、地方条例で、もしできるのなら、そういうことによって、若い人が入ってくると思うんです。同一労働同一賃金です。そういう環境が、島田市でできるのか、何とか特区にならないとできないのか、私も法律上ではよくわからないんですが、そういうことをしていけば、また若い人たちも集まってくるんじゃないでしょうか。</p> <p>same work same timeの話ですけれども、判例が出ましたよね。画期的な判例が。そういうことも追い風になるかもしれませんし、法律的なことはわかりません。ただやっぱり、そういうことをしていけば、その地区で働きやすいよねっていう、それこそ市長さんが言った働きやすい島田市っていうことになるかもしれませんし。</p> <p>税制で、そういうことをやってる企業に関しては、法人税を安くするとか。</p>	<p>面もあるわけです。やっぱり、企業にも出てきてもらわなければならないわけだから、労働者のところだけに、一方的に良いことを施策でしてしまうと、今度は企業が逃げてしまうっていう話もあって、企業に来てもらって、その人たちが正規で雇用してもらって、きちっとした給料がもらえるっていう形にしていかなければならないものですから、一点だけ見て、働く人たちや若い人たちをそこに集中させるには良い施策だけれども、一方で、企業誘致とか集積する意味ではどうなのかというような課題もあります。</p>
13	<p>■団塊の世代や若い世代への施策について</p> <p>若い人が生活に苦勞していますよね、とくに子育て世代は。そこに、税金を上げるっていうのはちょっと無理があると思うので、例えば、団塊の世代が65歳から70歳くらいに集中していると思うんですけれども、逆にこれをチャンスととらえて、その人たちはある程度、時間にもお金にも多少は余裕があると思うんだけど、その人たちにもっとお金と時間を、みんなのために使ってもらえるような、例えばボランティア活動で何かしてもらおうとか。私も、今年から年金をもらうようになって、早速介護保険の請求が来たんだけど、介護保険よりも、子育て手当として1万円とかの方が、自分としては気持ちよく出せるなっていう気持ちがあるんだけど、今、福祉福祉っていうけど、年寄りに重点が行ってるようで、もっともっと若い人に援助をしてあげたほうがいいかなって個人的には思っているけど。</p>	<p>●団塊の世代の方たちに、もっとボランティアをっていうのは、私はいつも言ってる話で、健康であるっていうのは、好きなことができる、好きなところに行ける、毎日グランドゴルフができることも幸せなことです。だけど、そこに1週間に1回でも、月に1回でも誰かのお役に立てたらもっと人生豊かになる。これを生かす場所が見つからないんだと思うんです。だから、地域の高齢の方たちと若い人たち、子育ての人たちが一緒に集えるような居場所づくりを今やっていたり、子育て支援のところに、団塊の世代の人たちに入ってもらったりしています。国の予算が、今は子育てにうんとお金をかけていますけど、少なくとも私が市長選に出ようと思った3年前は、高齢者に対する施策にける予算が100のときに、子どもに掛ける予算が3。100対3の割合でした。長いこと、高齢者は票を持っているから、国も、高齢者への施策を一生懸命やってきたわけです。子どもは、ある意味、選挙権が無いですから、国も、どっちかっていうと高齢者を大事にしてきたわけだけど、今はそれではだめだっていうことがはっきりとわかって、国も施策を変えてきているし、私も、年配の方たちには申し訳ないですけれども、ちょっと我慢していただいて、その分を若い人たちにつなげていきたいということはお話をしています。ですから、市が使う政策的な予算も、教育だとか、子育てだとかということに、お金が増えていくようにしていきたい。ただ一方で、民生費といって、福祉、医療、介護にかかるお金が、大体、一般会計って言って、島田の一般会計は、今年は、363億3,300万円なんですけど、このうち、これまでは3割がそういった扶助費と言ったお金でありました。今年は、やっぱりそれが少し</p>



		<p>伸びてきて、33%なんです。3%違うと10億円違います。島田は、企業会計や特別会計も入れた全部の予算は、だいたい770億円くらいです。その中で、一般会計とって、この町をまわしていく家計費のようなもの、これが363億3,300万円だけれども、そうした中に、福祉や介護や医療のお金がどんどん増えてきているっていうのも事実です。そこに、子育てのところも増やしていかなければならない。道路も造らなければならぬ。企業も誘致しなければならぬ。というところが、これからの難しいところになってきているんですが、国や県が、例えば道路を造る予算が、平成10年代と比べると3分の1くらいの予算しかもらえなくなってきました。ですから、例えば本通御飯屋線という通りについて、歩道をきちっと整備したいと思って、道路の改修をしようと思ってたんですけど、やっと今年、手がつきました。3年延ばして、やっと今、手がついている状況で、やりたくても、国や県の補助金が見つからないと、なかなかできないっていう、そういう時代にもなっています。</p> <p>そうした中で、先程おっしゃられた、今、島田市にどういふカンフル剤を打つかということについては、もっと目に見える形、私はこういうふうにして考えていきますっていうことを、1つに絞れるのかどうかっていうのは、今思っているところです。というのは、バランスの政策も、実は必要なんです。その中で、何を特化して見せていくのかっていうことを、今、私は問われているのだと思います。すごく真摯に、その言葉は受け止めました。10年先のために、今、何を選擇するかということが、市長の仕事です。ずっと右肩上がりの時は、やっぱり4年間が勝負で、4年で何をやればいいのかっていうことで、実績だったと思います。でも、それをずっとやっていたら、税金が減っていくわけだから、やっぱり限られた予算の中で、10年後のために、今は何を投資していくのか、何をやっていくのかというのが、実は、行政の仕事になっているし、市長の選擇になっているっていうことも思っています。そうした中での話ですので、この次ここに来た時には、しっかり話をします。</p>
--	--	--

※ 回答は全て市長から回答した。

④その他（市長から）

・この3年間の取り組みの状況等を、今、インターネット上で発表しております。30のお約束を市長になるときにしました。進捗率は93.3%であります。が、どんなことをやってきたかということが細かく書かれています。また、参考に見てみてください。インターネット上でも市のホームページから取れますので、ご覧いただければと思います。

⑤当日の様子

